Japanese Association of Educational Psychology

学習指導における視聴覚教材の効果について

（昭和35年度総合研究）

城戸幡太郎（東洋大）　堀内敏夫（東京学芸大）
村田宏雄（東洋大）　大川信明（東京女子大）
多湖　輝（千葉大）　○高桑康雄（国学院大）
○最上太門（国立教育研）　富田　悟（科学警察研）
高橋　勉（早稲田大）

Ⅰ　児童の概念構成における教材映画の効果について——「流れ作業」を例として

教材映画視聴前の導入過程の差異によつて，同一の教材映画を視聴した際に，児童の概念構成にどのような変化が見られるかを実証しようと意図した。

そこで，小学校5年の児童4学級に対して，a需要導入群，b材料導入群，c生産導入群，d流れ作業導入群に分けて20分間の話し合いをし，社会科教材映画「自動車—組み立て—」を見せた。その前後に「流れ作業」の説明を作文形式で書かせた。これを，流れ作業の要素—A組立て，B運搬，C分業，D大量生産の各要素がどのように叙述されているかという見地から分析比較した。

その結果は次のとおりである。視聴後においては，各群とも流れ作業の要素のいずれかをおさえている者が増加している。教材映画視聴の効果はあつたと考えてよいであろう。しかし，各群とも，ABCDの4要素とも完全にとらえて叙述している者は皆無である。こうした傾向は各群とも共通しているので，導入過程の差異による概念構成の変化という点では明らかな差は認められない。

Ⅱ　「流れ作業」に関する経験の有無と概念構成の差異

「流れ作業」の学習にAV教材を利用しようとするとき，テレビ等によつてなんらかの予備的知識をえられる経験をもつ者ともたない者とで理解の程度，内容が異なるかを検討した。4つの型の導入につづく教材映画の上映前後の作文体テストの解答を，無答および誤答，「流れ作業」の4要素（部品—全体組立と，物の一定順序での移動，分業，大量生産）の1つの指摘，同じく2つ以上の指摘，の3類型にわけて考察すると，事前経験をもつ者は，もたない者に比べて無答および誤答が少ない傾向をもち，AV教材による理解の深まりも大きい。また，要素的には，男子では「物の移動」，女子では上映後「分業」が多く指摘される。しかし，経験の有無が概念構成に決定的差異を与えることは認められなかった。

教材映画「軌跡の考え方」の学習効果

田　中　正　吾（大阪大）

目的　1）軌跡を映画でやつたときの効果測定。
2）映画の利用方法の相違による効果のちがい。
3）教育方法の相違により，レディネス・学習過程・学習効果の相互関連がどうちがうか。

方法　教材映画を製作し，知能分布，学習成績と知能との相関等を等しくする，高校1年の3組に実施。

D組　従来の教科書中心
E組　教科書としめくくりに映画2回
F組　映画としめくくりに映画2回

実験の結果　1）直後のテストでは3者差なし。2カ月後，Fの方がDよりすぐれている。
2）DとEの成績は知能とあまり相関がないが，Fの成績は，知能と相関があり，レディネス学習過程，学習効果の関連にも相違が見られる。
3）この映画は，しめくくりより，教育過程の中心部で利用した方が有効である。

児童生徒の映画観

小　倉　喜　久（山梨大）

甲府市内小・中学生484名に，映画と不良化，観覧制限，悪い映画，文部省選定，映画の観方，映画への注文，映画と勉強，映画教室，教育映画，観覧後の気持，計10項について，多肢選択法で意見を問い，これを映画の好き（L）ふつうおよび嫌い（ND），映画を見る回数の多少（A，B）マス・メデイア中の映画を好む順位（Ⅰ，Ⅳ）の3つの基準で各2群をとり，意見差の考察をした。全体的に2，3問のように児童の欲求に密接な問題においては両群の差は明らかであつたが，5，9では差がなく，映画の観方の均一性と，教育映画の代替的価値の少ないことを示した。男子は女子よりも多くの項目において，両群間の差を見ているが，女子の差は7で目立つた。小・中学生間の意見差は著しかつたが，両群間の差は他と同じく，その実態に照らして，自己防衛に傾く問題にみられたが，小学生よりも態度の影響は少なかつた。

Television-flicker による mass experiment の試み

苧　阪　良　二（京都大）

TVの教育性を高め，ますます緊張度を高めている近代人の精神衛生に一指標を与えんものと，TV放送による精神疲労測定法を案出して，その可能性を実験した。

MBS—TV局により光帯移動型輝度自動変調の類フリッカー送像装置が作られ，これを用いて，正統的フリッカー測定法と対比しつつ，家庭で精神疲労の測定がで

NII-Electronic Library Service